



発行：新潟市仏教会  
責任者：小林 一三

## カルトに御用心

秋葉区 広大寺 副住職 加藤 道 修

新潟市仏教会の理事会にて、「カルト」の危険性が取り上げられた。それまで全く興味がなく、遠い他人事ではしかなかった。今年度の「総会・勉強会」にて、カルトに関する講演があり、認識を改めた。

カルトとは、熱烈な信奉者集団をいう。その中で問題なのは、本人・家族・社会に害を与える破壊的カルトである。騙されて入信したり、多額の金銭を取られたり、勧誘活動にのめり込む。自主性が奪われ、組織の傭兵となる。

その一員になる過程として、自分から入る人は少ない。まず、組織の強引な勧誘があり、強烈な恐怖でもって、奈落の底に落とし込む。地獄に落ちる・霊の祟りだ・人類は絶滅するなどという文言で脅し、冷静な判断力を奪う。思考力が低下している中で、教義を埋め込み、何らかの救いを提示する。気がつくのと断り切れず、抜けられない

くなっている。後は、組織の言うなりのロボットが出来上がる。脱会者には制裁が下され、組織に縛り付ける。自分の意志で抜け出すことは至難である。

どこか見たことがある既視感に捕われた。そう、「振り込め詐欺」と構造が近似しているのではない。相手を突然恐慌状態に置き、思考を停止させる。そこに、多額の現金を振り込めば救いが得られると相手を説得する。本人は恐怖で冷静さを失い、頭が働いていない。周りからいかなる説得をしても、受け付けない。大金を振り込んで後、自分が騙されていたことに、初めて気がつく。事前にそういう情報に接し、自分だけは騙されないと豪語していた人に限って、いともやすやすと罠に嵌る。悔やんでも悔やみ切れない。それを防ぐには、とにかく落ち着くことである。信頼できる友人に相談し、冷静に客観視する以外にない。

かつて、いついつ人類が絶滅するという『大予言』が、一世を風靡した。多くの人々が不安に陥り、中には生活が破壊された人も出た。先日、著者の謝罪の文面を読んだ。ただ書籍を多く売らんがための煽り商売・虚構であったと懺悔していた。憤りを隠せない。

今後定期的に人類絶滅を謳う集団があちこち現れ、有象無象発生するであろう。

必ず自分は死ぬ。こればかりは、確実だ。不確かな予測に頼るよりも、これを踏まえて生きた方が合理的ではないか。未だに振り込め詐欺が根絶せず、益々増加しているように、カルト勢力はこれからも、うじゃうじゃ湧くだろう。

鰯の頭も信心から。信教の自由があるので、他人様のことはとやかく言いたくはない。だが、善良な人がそれに関わり苦しむのを見過ごすことには気が引ける。社会的破壊活動をする暴力集団は御免被りたい。夢から醒めよ。カルトに御用心あれ。くわばら、くわばら。



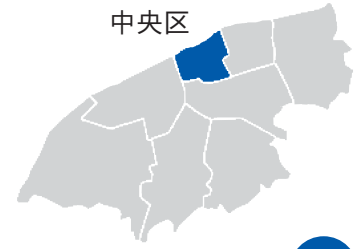
“新宗教に対応する  
仏教の役割”  
講師：中野東禅師



平成30年度 新潟市仏教会総会・勉強会  
(H30. 4. 24 於 イタリア軒)

シリーズ 市区八区

中央区



## 中央区の記事

四月八日は  
「花まつり」

勝樂寺 安藤 栄 寿

(新潟寺町花まつり奉賛会会長)

四月八日は花まつり。花まつりは灌仏会（かんぶつえ）ともいわれ、お釈迦様が誕生したとき香りのよい甘い雨がお体を清めた伝承にならない、可愛い仏様に甘茶をかけて皆でお祝いします。

「新潟寺町花まつり奉賛会」では、多くの園児と共に、かけがえのない命の尊さに出会い、子供たちの健やかな成長を願って、お釈迦様のお誕生日をお祝いしています。

そのお姿を見ますと、右手は上を指し左手は下を指しています。「天上天下唯我独尊」（てんじょうてんげゆいがどくそん）というお心を表わしています。「天上」とは空間「天下」は大地、つまり地球上のどこを探しても私と同じものはいないので。誰とも代わる事の出来ない唯一無二の尊い存在であることを、お姿で知らせて下さっています。

しかし、現代は巨大な消費社会です。絶えず更新し新しく変えていきます。この社会構造的意識は人間にも及んでいます。「人材」に象徴される「人間」を「材料」とし、機能が落ちて不要となれば代替え可能な者と取り替えていきます。

存在の真実に気づけば、この世界は代替え不可能な唯一無二の

一人が集まってできている。学校も社会も、それぞれ多様な個性を持った一人一人の集合体です。比べる必要がない。条件を付けない。ここに存在している事がそれだけで尊く、得難い唯一無二の存在なのです。

この存在の尊さへの出遇いは「生きる力」に通じます。様々な時代背景の中、会のかたちは変わってききましたが、連綿と受け継いできた願いを、「新潟寺町花まつり奉賛会」では花まつりを通じ、多くの市民、これからの社会を背負っていく子供たちと共に尊い場を発信してまいります。

事業としては、例年四月八日午後一時に西堀に在る寺院を会場として、お勤めの間に、園児に灌仏（甘茶かけ）、続いてお歌を合唱し、紙芝居を見ます。二時からはお稚児様を先頭に雅楽の演奏に導かれながら古町を下手から出発し、古町七番町（旧大和デパート前）まで、白象（びやくぞう）と共に練りをします。また古町会場（旧大和デパート前）では十時から三時まで甘茶をふるまっております。



古町会場



本堂での様子



## シリーズ 市区八区



西蒲区

## 西蒲区の記事

## ひのまる幼稚園と

## 巻真宗教室

専福寺 吉藤 信彰

蒲原地帯では、西蒲地区は真宗でも大谷派が圧倒的に多い地域ですが、旧来の巻町は本願寺派、お西さんのお寺に囲まれ、当山は唯一の大谷派のお寺です。

その影響で、周辺の在方から郡都巻町に住み着いた門徒の方々が「ご縁借り」と言ってお墓を建てる人が多い大谷派の拠点となる寺でした。

約二十年を要しましたが、墓地を区画整理し「鷺森墓苑」と命名しました。「鷺森」とは開基住職興善は大和に生まれ、蓮如上人に帰依、越前吉崎にて専養坊を建てる。大坂本願寺の信長との石山合戦に参陣、本願寺頭如・教如上人が和歌山の鷺森の退去に帯同し、鷺森に移住する。ここに山号「鷺森山」の謂れがあり鷺森を用いました。

教如上人より北越教導を命じられた六世浄善は、天正七年（1579）同行七、八人と共に竹野町に一字建立し、専福寺と改称して慶長八年（1602）巻町の現在地に移ると伝えます。尚、江戸中期まで当山は加賀金沢の吉藤専光寺末と古文書にあります。

吉藤の姓には専光寺様との縁の深さがうかがわれます。

昭和四十四年、前任職信悟師は結婚を機に幼稚園を開園、巻町唯一の幼児教育の施設として教育に携わり、これまで三千五百名を超える卒園生を送り出してきました。

又、真宗興隆を掲げ、廣澤憲隆師を講師に迎え、毎月の聞法会「巻真宗教室」を広く町民に開講し、今年からご和讃をテキストにお念仏の心を学んでいます。

今春より宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要に向け、鐘楼の再建を着工したところです。



鷺森墓苑



園児さん、熱心に聞法

『新潟市に区が八区』あることと、仏教語にある『四苦八苦』をかけて、各区の記事を順番に紹介するコーナーです。

## 予告

## 第11回 市民のための仏教講座

二年に一度開かれる新潟市仏教会の「市民のための仏教講座」、今回は講師として、お笑いコンビ笑い飯の哲夫氏をお迎えして、以下のように開催いたします。



- 1, 日 時 平成30年10月10日(水) 午後6時30分開演 8時30分終了予定
- 2, 会 場 県民会館 大ホール
- 3, 講 師 笑い飯哲夫氏
- 4, 演 題 笑い飯哲夫のおもしろ仏教講座
- 5, 入場料 (前売り)1,000円、(当日)1,200円、(学生割引券)500円 全席自由  
新潟市仏教会各寺院・県民会館チケットセンター・文進堂書店  
各店、並びに主要な仏壇店・葬儀社などで販売いたします。

【わらいめし・てつお】

1974年奈良県桜井市生まれ。本名：中西哲夫。

関西学院大学文学部哲学科卒業後、2000年に西田幸治とお笑いコンビ「笑い飯」を結成し、2010年にM-1グランプリ優勝を果たす。幼い頃から般若心経に関心を持ち、独学で仏教を研究する。写経する姿を多くの芸人に目撃され仏教好きを公表。以来、東京大学をはじめ各地で講演を開始。2015年より奈良国立博物館の文化大使を務めている。

著書『ブッダも笑う 仏教のはなし』

『えてこでもわかる 笑い飯 哲夫訳 般若心経』他

主催●新潟市仏教会

【お問い合わせ先】新潟市仏教会事務所

TEL.025-249-5513

## 特殊詐欺の被害防止について

新潟市仏教会会長 小林 一三

最近、特殊詐欺は被害が増加し、高齢者等社会的に弱い立場にある県民が被害となっております。

特殊詐欺の被害防止を一層強化するため、さる五月二十一日、新潟県警察本部から新潟市仏教会の全面的な支援、協力が必要と「要請書」の要請式が行われました。

その趣旨は  
一つ、法等で檀家宅を訪れた際に、特殊詐欺被害の未然防止について、注意喚起をすること。  
二つ、特殊詐欺事件に関する被害、または前兆事案に関する情報を得たときは、警察等へ通報する。

具体的には、これまでに起きた事例、事件等、中味をまとめた数種類のパンフレットの配布や説諭の要請であります。

特殊詐欺は、意識を変えれば被害は妨げます。

オレオレ詐欺、架空請求詐欺、融資保証金詐欺、還付金詐欺など「私は大丈夫」からの意識改革の時代にあつて、各御寺院様の積極的な行動に期待がかかっております。



## 編集後記

昨年の八月二十一日よりほぼ毎日。現在は、毎朝七時から八時まで、新潟市中央区のNEXT21の16階で朝粥坐禅会が行われている。

曹洞宗の僧侶五十名ほどが登録しており、毎朝、必ず僧侶二名が坐禅指導・法話、食事作法、質疑応答など親切に対応している。参加者ゼロの時もあれば、個人で、友達で、ご夫婦で、親子で、団体で、などこれまでが大勢の方々が坐禅を体験しており、参加者の広がりがかげがえる。

「坐禅すれば自然に好くなるなり」の示しがある。

三十代位の男性は、坐禅を始める前は少しきつい表情だったとのことだが、坐禅の回数を重ねるごとに次第に柔らかい表情になっていったと、一緒に参加した友人が話してくれた。

機会があつたら、是非、あなたもご参加してみては。

【問い合わせ】025-201-9131  
この『仏法僧』もおかげさまで第四十六号の発行となりました。ご苦労されての一言一句の言葉、目を通していただければありがたい。鳴謝不尽。

後記に代えて

(廣林坊)

